



エイジアン・ブリーズ 111号 令和7年（2025年）12月発行 ウェブニュースレター

一緒に歩こう、コミュニティラジオを聴きながら

-チョン・ヒヨミン(韓国)

私は韓国・釜山の小さなコミュニティラジオ局でプロデューサーとして働いています。コミュニティラジオは地上波放送局のラジオと同じ周波数なので、このAIの時代であっても、電気さえあれば聞くことができます。もちろん、ネット環境があれば、アプリで放送を聞くこともできます。午前7時から深夜まで、放送はほぼノンストップで情報と音楽をいつでも提供しています。

ラジオは聴覚情報に基づく非常にアナログなメディアですが、私たちの日常生活に広がりや様々な可能性をもたらします。ちなみに、今もラジオを聞きながら書いています。(このような時は、なぜか自分のラジオ局ではなく、他局の番組を聴きたくなります。)

視覚と聴覚の両方の情報を得るために画面をじっと見なければならない映像とは異なり、ラジオの最大の強みと魅力は、耳をすましていれば、歩いたり、手を動かしたり、他のことをしながら楽しめる点です。これは誰にとっても利用しやすい、まさに万人向けのメディアではないでしょうか。

主要な地上波ラジオとは異なり、「コミュニティラジオ」は、放送地域の特徴をよく反映しています。単身世帯と高齢者が急速に増えている釜山に

おいて、コミュニティラジオの顕著な特徴の一つは、女性のプロデューサーと司会者の活躍でしょう。

まず、数字で見てみましょう。2025年9月現在、私たちのコミュニティラジオの番組数は24本。そのうち、女性が番組制作に関わったり、司会者として活躍したりしている番組はなんと17本にのぼります。女性の年齢も様々でテーマも多岐にわたります。

若い女性クラシック演奏家と中年女性プロデューサーが出演する「キム・ムンジュン パク・ジョンヒのクラシック旅行」という番組では、市民に馴染みのないクラシックを紹介し、時には公演プロデューサーを招いてインタビューを行っています。

「キム・ギムジョンの今、会いに行きます」は、さまざまな職業のゲストをスタジオに招き、女性司会者を中心に多様なキャリアを紹介することで、ジェンダーに関する固定観念の打破に取り組んでいます。

番組タイトル自体が女性の番組であることをアピールする場合もあります。「彼女たちのチャット

ルーム」は、地域のニュースに加え、コミュニティの女性に役立つ子育てや教育関連情報を提供しています。

もう一つの番組は「チョンバジ（ジーンズ）」です。これは韓国語の「チョン(청): 青春」「バ(바): まさに」「ジ(지): 今」の頭文字をとって名付けられたもので、文字をすべて合わせるとチョンバジ（ジーンズ）という言葉になります。番組の内容は、まだ若いと自称する60代の女性たちの幼少期の話から、結婚した子どもや孫の話まで、これまでの人生を懐かしむ思い出に溢れています。

ラジオの制作と運営において特定の性別に偏らないよう配慮していますが、ラジオ制作・放送における女性の参画は、コミュニティラジオの大きな強みです。これは女性たちが地域に根ざし、時代や世代を代弁したいという思いで積極的に参加しているおかげです。

現在、ストリーミングサービスでいつでもどこでも動画や情報を見ることができますが、これは制作されたコンテンツをただ見たり聞いたりする受け身の行為です。これに対しコンテンツ制作は、より能動的な活動です。たとえばラジオ業界では、番組のテーマを決める会議を開き、司会を務め、毎週一定量の台本を書き、活発な対話を促すためにゲストの出演を手配し、割り当てられた時間の放送を制作します。こうした活動を通じて、女性たちはメディアの選択肢を広げています。彼女たちは自分が聴きたいコンテンツを自ら制作・放送し、フィードバックを受け、それを積極的に取り入れています。さらに、こうした経験豊富な女性プロデューサーたちは、四半期ごとに「コミュニ

ティ・ウォーク」を開催しています。これは季節の移り変わりと共に感じながら、互いの番組について意見を交わし、時にはゲストを招いて行うイベントです。

こうした力強い中高年の女性たちとの出会いを通じて、私も成長しています。彼女たちは、世代を超えたつながりを可能にしてくれる存在です。この夏、放送局の外で女性プロデューサーと会う機会がありました。まるで母と同世代の新しい友人ができたような感覚でした。

彼女が運営に関わっている小さな村の図書館を訪れ、街中にある森の小道を歩き、冷たいそばと一緒に味わいました。ラジオを通じて出会った私たちは、ラジオを聴きながら歩きました。

私の貴重なコミュニティラジオでの活動経験も、まもなく幕を閉じます。ラジオ放送から流れる美しい音楽や、生放送ならではの緊張感を決して忘れるのではないでしょうか。何よりも、数々の人生経験を分かち合ってくれた同僚の女性たちの情熱は、長く私の記憶に残るでしょう。さらに「ラジオ」という能動的なメディア活動を通じて、女性たちの人生をどのように表現し、記録し、共有するかを学びました。Wi-Fiを必要とする動画とは異なり、ラジオ放送はラジオの周波数を通じて送信され、宇宙に刻まれます。それはまるで、時を刻む永遠の記録のようです。さあ、コミュニティラジオと一緒に聴きませんか。

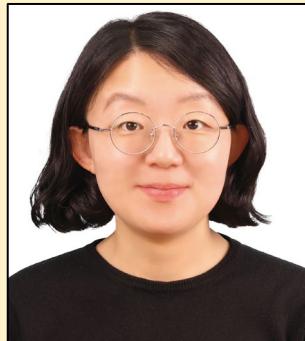
ラジオブースの外で、音楽を選曲し司会者と打ち合わせをする様子



放送を録音するためのラジオミキサー



【プロフィール】



チョン・ヒョミン

社会学と社会経済学を専攻。アジアと女性のエンパワーメントに焦点を当て、地域メディアを通じて活動する、活動家としての視点を持つ研究者。コミュニティ・マッピングを通じて代替地図を作成し、地域の声や視点を発信している。前職はコミュニティラジオ・ヨンジェ FM (<http://115.68.193.176:8000/yeonjefm>) のプロデューサー。

SNS では Asian Breeze の発行をはじめ、最新情報を発信しています。ぜひフォローをお願いします。

画像クリックでページに飛べます